

趣味紹介

やさいづくりの記
その2

—母の言葉を思い出しながら—

【まず土作り】

平成18年の4月、春野菜用の土作りをはじめました。種まきや苗植えつけの2週間前に、苦土石灰を撒いて酸性になっている土を中和し、1週間放置した後、近所の養豚農家から分けてもらった堆肥をすき込んで、また1週間放置すると土作りが完了です。この作業をおろそかにすると、良い野菜は育ってくれません。

【親の意見となすびの花は……】

4月下旬、近くのJAストアで、茄子の苗を10本購入し、畑に植えました。雨の降らない日は、必ずじょうろで水をかけてやり、大事に育てました。3週間も経つと茄子苗は大きく成長し、花が咲き始めました。そして花が咲いてから1週間過ぎて実がなり始め、さらに2週間待望の収穫となりました。茄子というのは、咲いた花はすべて実を結んでくれます。母がよく言っていた、「親の意見となすびの花は、千にひとつの無駄も無い。」を実感しました。しかし、肥料分が切れて来ると途端に葉の色つやも悪くなり、花も咲かなくなります。これもまた、昔母が「茄子だば、じぎつけねぐなればすぐだめになる。こまめに追肥やってくれば、えづまでもなるもんだ。」と言っていたとおり、追肥の効果で9月下旬まで立派な実をつけてくれました。焼き茄子、味噌油いため、そして茄子がっこは最高でした。

【苗作りにチャレンジ】

苗を購入して育てるより、種から苗を作ってみたくなりました。専門書を読み、培養土と呼ばれる種まき専用の土と、種まき用のポットを購入し、超ミニサイズのビニールハウスを作って、苗作りを始めました。白菜、キャベツ、ブロッコリー等は、8月の最も暑い時期に種を蒔きます。少しうっかりすると、せっかく発芽したものがすぐ枯れてしまいます。毎朝早起きをして、水をやり、丁寧に育てました。1ヶ月もすると、JAストアと同じような立派な苗が育ちました。同様に9月には玉ねぎの苗も作りました。

【できた苗を畑に定植、そして収穫】

9月下旬、「白菜どが、たまなは、むねはば2尺、苗ど苗の間は1尺5寸」昔母が話していたことを思い出しながら植えつけをしました。こまめに水やりをし、植えつけして1ヶ月後にしっかりと追肥を行い

ました。11月下旬、びっくりするような立派な白菜とキャベツが収穫できました。また、翌年の1月には、ブロッコリーが獲れました。そして5月下旬には、冬の上州名物、空っ風に耐えて、立派に育った玉ねぎを食することができました。

【連作障害のこと】

平成19年4月、前年の成功に気を良くしていた私は、春になるのを待ちかねたように、また土作りからスタートしました。そして、定番の、茄子・きゅうり、そして各種葉菜等の作付を、前年と同じレイアウトで行いました。最初は順調に育っているように見えたのですが、植えてから1ヶ月も経つと、目に見えて元気が無くなり、茄子もきゅうりもさっぱり花をつけなくなってしまいました。「石灰も肥やしも充分に入れたはずだし、どういうことだろう。」と、野菜作りをして初めて悩みました。そして、これもまた母から聞いた「野菜は毎年おんなじどごさ植えればだめだもんだ。」という言葉を思い出しました。インターネットで調べると、「毎年同じ場所に同じ野菜を栽培すると、土壌の養分バランスが崩れたり、特定の病害虫が増えたりすることによって、野菜の生育が著しく悪くなる。これを連作障害といい、防止するには輪作をすればよい。」とのことでした。そこで、パソコンで畑の図面を作り、年ごと、季節ごとの栽培履歴をデータとして管理し、しっかりと輪作することにしました。今回はここまでにします。

【不思議に思うこと】

最近、昨日のことさえ思い出すのに苦労していますが、50年以上前になる、もの心ついてから中学生のころまでの、母との対話の一言ひとことが鮮明に甦ってきます。不思議なことです。



土作りの切り札、耕運機



収穫間近、玉ねぎ

◆ 記事

佐藤 弘 昭和40年機械科卒
東京秋工会 幹事

補償コンサルタント・一級建築士事務所



代表取締役 池田 昌憲 (昭和47年建築科卒)

本社 / 〒010-0062 秋田市牛島東2丁目1番30号
TEL. 018-884-0966 ・ FAX. 018-825-0903
E-mail : main@shoken.tv

DIME 株式会社 タイム

建設業登録 東京都知事 許可(般-1)第121344号
建設コンサルタント登録(地質部門)建18第8590号

代表取締役 広野 進
取締役 鎌田 国雄 (昭和37年土木科卒)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-5-7 東専堂ビル3階
TEL 03-5275-7756 FAX 03-3512-3202
ホームページ : <http://www.di-me.co.jp/>